聖戰へ捧げる赤誠[[1]](#footnote-1)

朝鮮臨戰報國團　各道に支部設置

なる將兵のに應へて吾等もすべてをげよ――と、在城半人がにのぞむ高らかな意氣を赤一つにさせてさきに成した朝報國は、火とゆる口舌をに全にび掛け、或は街にをへてび出し實の大道を歩むなど、その動方はますますをめて來たが、にも整つたのでこれを全に及させるため各道に一支を設けることになり、近く左記日の通り員を各府邑にし、同時に各員が中心となつて各地でんな會を開き、二千四百万萬を一人殘らず戰氣への道にのせることになつた。

出會場所　集會時日　　　　委員到着時間　　　　　　　派遣委員名

春川邑　　十月十八日　　同日午前十一時四十五分　　　高元勲、李晟煥

大田府　　十月十日　　　同日午後三時廿三分　　　　　朴基孝、李晟煥

清州邑　　十月十一日　　同日午前十一時六分　　　　　同上

海州府　　十月十一日　　同日午後一時三分　　　　　　崔麟、金思演

平壌府　　十月十三日　　十二日午後三時卅分　　　　　高元勲、朴興植

新義州府　十月十一日　　同日午前五時五十四分　　　　金川聖、朱耀翰

咸興府　　十月十四日　　同日午前十時十分　　　　　　韓相龍、金東煥

清津府　　十月十五日　　同日午前八時　　　　　　　　同上

大邱府　　十月十八日　　同日午前五時五十八分　　　　金時權、李光洙

釜山府　　十月十九日　　同日午前九時五十二分　　　　同上

全州府　　十月十八日　　同日午前七時五十四分　　　　金□洙、辛泰嶽

光州府　　十月十九日　　同日午前九時廿九分　　　　　同上

1. 1941年10月9日付『京城日報』夕刊 [↑](#footnote-ref-1)